



社会福祉法人 恩賜財団

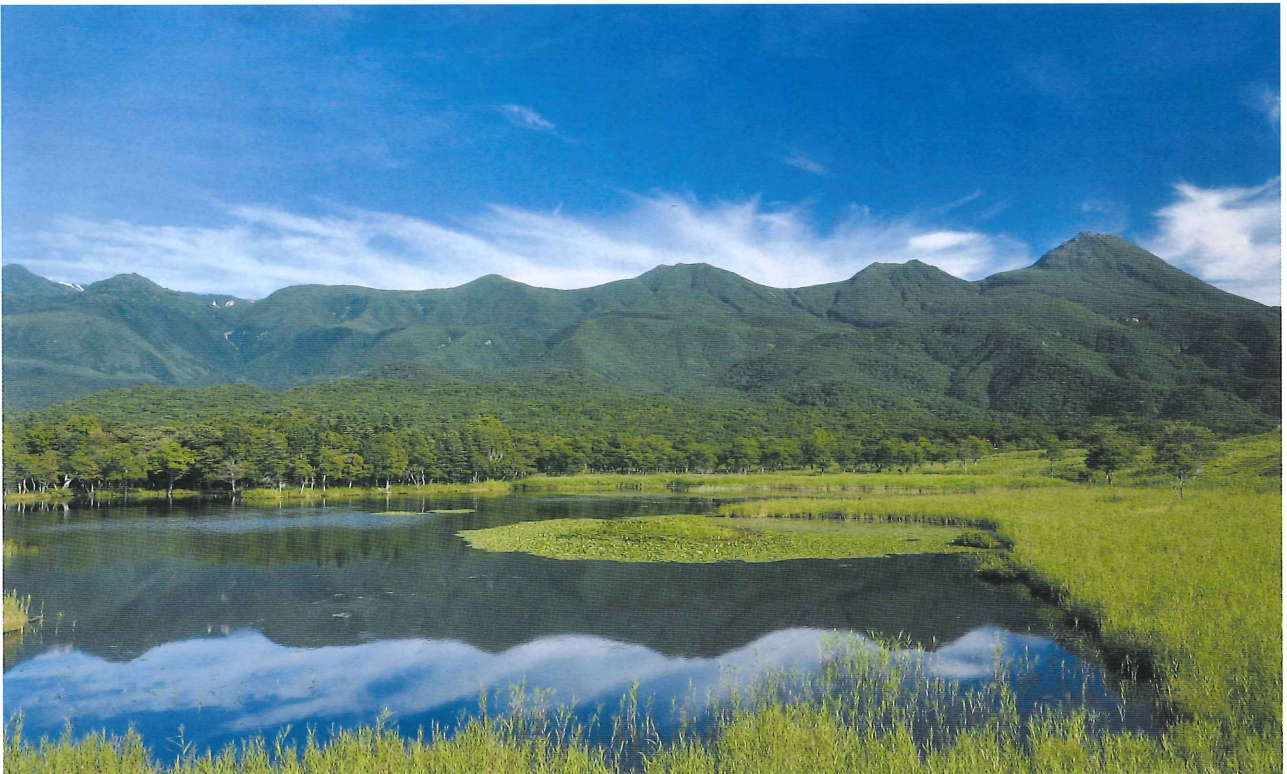
東京都同胞援護会

TOKYOTO・DOHO・ENGOKAI

同援だより

2017年 盛夏号(179号)

<http://www.doen.jp/>



新体制に向けて

常務理事 中島 昭



このたびの同援だよりの発行に当り、まず、理事長の交代につきましてご報告いたします。先般六月二十八日の定時評議員会及び理事会において、牧野前理事長の後任として飯山理事長が就任されました。牧野前理事長は、その在任中、当法人の様々な懸案を解決され、私

たちを「利用者本位の福祉」の実現へ導いていただきました。今後は、飯山新理事長のもとに、新たな指導体制が始まります。同時に、平成二十八年度の事業報告及び決算報告も承認されましたが、病院が患者数の伸び悩みなどから三期連続の赤字決算となったこと、保育士の処遇改善などに伴う人件費の増及び法人管理体制強化の二環である賞与引当金の積み増しなどにより、非常に厳しい決算内容となっております。

去る四月二十七日、白井昭島市長を始めとする多くの来賓をお招きして、昭和郷高齢者複合施設の竣工式が挙行されました。ここに至るまでの開設準備担当職員のご苦労に対し、改めて感謝申し上げます。

この施設は、昭島病院とともに高齢者の在宅生活を支援する一大拠点となっております。五月一日から事業を開始し、順調に利用者を増やしつつありますが、軌道に乗るまでには今後2年以上の期間を要すると思われれますので、今後も法人全体のご支援をお願いいたします。

また、今年度から、「豊島区西部障害支援センター」の業務を受託しました。これは、区の職員が行っていた身体障害者手帳の申請受付などの事務を行うという当法人にとつて初めての受託内容でしたが、配置された職員の頑張りで、円滑な区民サービスが行われています。

これからも、住民ニーズに応えた新たな事業を展開しながら、法人を取り巻く厳しい環境を乗り越え、やりがいのある法人を作り上げていかねばなりません。

私たちの東京都同胞援護会の動向は、常に他法人から注目されています。役員一同、一致団結して新しい未来を切り開き、地域に取って掛替えない存在になりたいと思います。

就任のご挨拶

理事長 飯山 幸雄



このたび、六月二十八日をもちまして本会の理事長に就任いたしました飯山でございます。

多大な功績を残された牧野前理事長の後を引き継ぐことになりましたことに、身の引き締まる想いでおります。

昨年三月末に成立した「社会福祉法等の一部を改正する法律」が本年四月から全面施行され、社会福祉法人制度改革が進められている今日、もとより微力ではありますが、職員の皆様、理事・評議員の皆様、後援会の皆様をはじめ、関係する皆様のご支援・ご協力を賜り、精一杯本会のために尽くしてまいりたいと

存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は昨年本誌に、理事としての「新任のごあいさつ」を載せていただきましたので少し重複いたしますが、簡単に自己紹介を申し上げます。

昭和四十五年に東京都庁に就職いたしました。当時は特別区への配属制度があり、福祉事務所において福祉六法担当のケースワーカーと経理事務の仕事に従事しました。その後当時の民生局（その後福祉局、福祉保健局となる。）に異動し、局の管理事務や区の福祉事務所長、都の児童相談所長の仕事をいたしました。

そのような訳で、私の具体的な福祉事業との関わりは実施機関中心でしたが、局の管理部門で仕事をしながら、局の管理部門で仕事をすることとなりました。また、現在は組織がなくなりましたが、東京都養育院という、板橋ナーシング

ホーム等の大規模社会福祉施設と大型病院の老人医療センター（板橋と東村山に二院）、そして老人総合研究所を有する一大社会福祉組織の管理部門に勤めたことで、施設経営について貴重な経験を積むことができました。

部長級になるとき福祉部門を離れ三多摩の仕事に就き、その後複数の局の管理部門の仕事をして、七年ぶりに福祉部門に戻り児童相談センター所長となりました。平成十五年の夏でしたが、この頃児童虐待問題が顕在化し社会問題となり、児童福祉法の改正が行われました。このときは、昨年のご「あいさつ」に記したとおりです。

その後平成十七年に東京都国民健康保険団体連合会の専務理事となり、平成二十四年に現在の国民健康保険中央会の常務理事に就任して今日に至っております。ここ十年は国民健康保険関係の仕事が大きな比重を占めております。

本年四月に国立社会保障・人口問題研究所が、平成二十七年国勢調査の確定数を基に新たな全国将来人口推計（二十九年推計）

を公表いたしました。これは、前回の「二十四年度推計」と比較して、三十〜四十歳台の出生率実績上昇を受け合計特殊出生率が上昇したこと、平均寿命の延びが見込まれることから、人口減少の速度や高齢化の進行度合いが緩和されるというものですが、我が国が超少子高齢社会になることには変わりありません。

政府は団塊の世代全員が後期高齢者になる二〇二五年にも社会保障制度が持続できている状態とするため、社会保障制度改革を進めています。その一環として国民健康保険制度も都道府県が市町村とともに事業運営に当たるといって運営体制の大改革が来年度から実施されます。それを踏まえ、都道府県が県域単位で予防・健康・医療・介護の司令塔になるべきだとしています。

また、進歩を続けるICT技術を活用して保健・医療・介護関係のデータの活用を進めるとして、データを活用することによって、「地域包括ケア」を充実させ、個々の住民に最適な医療、介護、福祉サービスを提供できる地域

このネットワーク構築が急がれます。このネットワークは、システムで事業所・施設・医療機関を繋ぐとともに、役割分担を明確にした人の関係を築くことだと思えます。地域ネットワークに本会の各施設が積極的に参画し、人々の地域生活の充実に貢献することができればと考えております。

また、一方、今回の社会保障制度改革では全世代を対象とした制度構築が謳われており、毎年度の政府予算における社会保障の充実に於いて、子ども・子育て支援にも財源が充てられています。しかし、そうした中で「待機児問題」が大きな課題となり、その解消が政策の焦点ともなっています。

このような状況の中で、本会に対する都民の期待は高いものと存じております。

各施設には長期間蓄積された多岐に亘る豊富なノウハウがあると思えます。この本会の力を都民の生活に役立てることができるよう、役員各位を始めとする関係者の皆様と心を一つにして努力してまいりたいと存じます。

退任のご挨拶

前理事長 牧野 洋一



私は、去る六月二十八日の定時評議員会をもって、理事長を退任いたしました。平成十六年五月三十日に理事長に就任以来、七期十三年に亘って、理事長を務めさせていただきましたが、在任中、各施設・事業は、「概ね順調」に運営されてきたと思っております。このことは、常務や各部長、施設長さん方を始めとした我が法人の優秀な職員の皆様のおかげです。この紙面をお借りして、深く感謝申し上げます。

この間、沼津市にあった児童養護施設松風荘を共生会に譲渡したことで、法人の所轄庁が国から東京都に変わりました。また、サンラ

イズ世田谷やサンライズ山中などの事業廃止がありました。同援さくら保育園、原町高齢者複合施設、同援はいじま保育園及び昭和郷高齢者複合施設などを新たに開設することができました。

また、十八年四月に、都から立川福祉作業所と東村山生活実習所の事業を譲り受けたほか、昭島市から「あいぼつく」や「ぱれっと」を、豊島区からは西部障害支援センターを受託しました。

改築や大規模修繕では、平成二十一年度の東村山生活実習所改築を始めとして、二十七年年度の双葉園小規模ユニット化の大規模修繕まで、七施設を整備することができました。

私は、就任時に「利用者本位の福祉」の実現が何よりも大切なものであり、そのためには、法人の各種事業が、真に「利用者本位の福祉」を実現できるよう、より一層の改革の努力を重ねることだと申し上げ

ました。

在任中、各施設・事業が「概ね順調」に運営され、地域の信頼を勝ち得ていることをみると、職員の皆さんが、私の信条を理解していただき、不断の努力を積み重ねてこられた結果であると、大変うれしく思っております。

ただ、昭和郷の施設整備は道半ばであり、昭島病院の安定的な運営の道筋をつけることはできませんでした。他にも今後の去就を決めきれなかった施設もあります。更に、人材確保も年々困難になりつつあり、良い人材を確保・育成するためには、給与制度等の改革も必要だと思っております。残した課題は大きいと思えます。

このような状況にあっても、素晴らしい新理事長のもと、我が法人の優秀な職員の皆様は、そのたゆまぬ努力によって改革を進め、私がやり残したことも含め、真に「利用者本位の福祉」を実現していただけるものと確信しております。

長い間、本当にありがとうございました。皆さんのご健闘を祈ります。

新任 挨拶



大正大学人間学部
社会福祉学科教授
評議員 宮崎 牧子

このたび、評議員をつとめることになりました。自己紹介をかねて、ご挨拶をさせていただきます。

私はよく「おばあちゃん原宿」といわれる巢鴨の近くにある大正大学の人間学部社会福祉学科で、二十年ほど、高齢者福祉や地域福祉の講義、実習指導などを担当してまいりました。同僚援護会との御縁は、本学の卒業生が同僚援護会の職員でいらして、実習指導を行う立場になられたことでした。その後十数年を経て、実習施設はニューフジホーム、双葉園、ゆたか苑、原町ホームなどに広がり、年間二十名近くの学生に実習指導をいただいております。とくに、ゆたか苑は、本学と同じ豊島区内にあるため、大勢の実習生を受け入れてくださっており、感謝の念に耐えられません。また卒業生を職員として採用いただいております。

さて、日々社会福祉教育に携わる者として、福祉人材の確保が困難となつていく現状を見過ごすわけにはいきません。一人でも多くの卒業生を社会福祉の現場に送り出すことができるよう努め

ておりますが、学生の就職先選びには、最近、次のような傾向が見られるようです。①土日休みの職場を好む。②夜勤を敬遠する。③最初から相談職を希望する。④ユニット型を好む。⑤親元からの通勤できる職場を選ぶ。⑥新設の施設を好む、などです。

学生に対する就職指導では、たとえば、土日が休みでないことのメリットを伝えたり、重要なことはキャリアをどう積み重ねるかであつて、建物が新しいから働きたいではダメで、いかに現場と密着した仕事をすることが大切であることなどを話したりしています。

同僚援護会におかれましても、新卒者への就職説明会を行う際などには、今の学生の傾向を踏まえて、たとえば、従来型施設の良い点を説明したり、夜勤の心配を和らげるような具体的な話をしたりしてくだされば、社会福祉の現場で働いてみようと思う学生も増えてくると思っております。

ある高校生の話ですが、社会福祉を学びたいと思つて、特養にボランティアに行き、相談員に「相談員の仕事を教えてください」と尋ねたら、相談員は「仕事は雑用です」「相談の仕事は、行政か社協でないといけない」と言われたとレポートに書いておりました。社会福祉の現場で働く学生を増やすには、職員が仕事の内容を丁寧に説明するということも、困難はあるが魅力的な仕事であることを具体的に話されることが大切だと思ひます。私も大学教育を通じて、社会福祉という仕事の魅力を学生に伝えていきたいと考えております。

理 事 及 び 監 事

任期 平成29年6月28日～平成31年6月定時評議員会の終結の時まで

監	監	理	理	理	理	理	理	理	常務理事	理事
事	事	事	事	事	事	事	事	事		長
岩	鈴	石	上	菅	品	森	橋	多	中	飯
井	木	井	原	原	川	谷	本	久	島	山
令	道	好	淳	眞	卓	順	泰	島	耕	幸
雄	生	子		廣	正	蔵	子	治	昭	雄

評 議 員

任期 平成29年4月1日～平成33年6月定時評議員会の終結の時まで

宮	岡	堀	比	川	田	本	五	小	古
崎	橋		留	向	中	山	十	山	屋
牧	生		間	良	幸	美	嵐	寿	正
子	幸	茂	由	和	子	八	力		義
			真			郎	平		

新 任 挨 拶



大山保育園
園 長 大越亜紀子

四月より大山保育園の園長を務めさせていただくことになりました。平成元年に大山保育園に入職し平成十八年から同援さくら保育園勤務となり、再び大山保育園に戻って参りました。園舎が新しくなり昔の面影はありませんが、入職当時に通っていた園児が今は保護者となつて我が子の手を引いて園に通ってくる姿を目にすると地域に信頼される園になつているのだと嬉しく思います。この度、慣れ親しんだ園で園長としてスタートさせていただいたことに感謝すると共に、責任の重さを感じております。

今は、運営管理という大きな役割の中で慣れない業務も多く、諸先輩施設長の方々や現場の職員に助けられながら業務を進めているので、一つひとつ学び成長できるよう努力していきたいと思っております。

二年間の幹部候補者研修の中で

「福祉は人」という言葉を数えきれないほど聞き、管理職となつてから、その言葉を今まで以上に痛感しております。

平成三十年には保育所保育指針の改訂が行われます。保育士確保の困難・保育士の離職が大きな課題であり、保育士・保育内容の質の向上が求められる中、まずは職員の気持ちに寄り添い、職員間でお互いの良さを認め合い、風通しが良く、やりがいを感じながら仕事に取り組める職場を目指していきたいと思ひます。そして「子どもたちにとつて何が大切か」と職員と共に考え共有し、利用者である子どもや保護者の気持ちに寄り添った関わりを大切にしながら、保育の質の向上に向け何事にも誠意を持つて取り組んで参りたいと思ひます。今後とも皆様方のご指導よろしくお願ひいたします。



ひかり苑
副園長 坂庭 弘行

平成二十九年四月より、ひかり苑副園長を勤めさせて頂くことになりました。私は、平成九年にフジホーム調理職員として入職し、平成十三年よりニューフジホーム介護職員となり、その後平成二十二年から介護主任として従事してまいりました。私は、「ご利用者様の笑顔は介護職から」介護職員が笑顔でいなければ、利用者も笑顔にならない、と思つております。

職員が笑顔で働ける職場を作る手伝いをするのが、私の仕事だと考えております。時に困難なこともあると思ひますが、「出口のないトンネルはない」というのが私の信念ですので、トンネルに入つてしまったときには、ひかり指す出口に向かつて、ひかり苑職員とともに頑張つていきたいと思ひます。

ひかり苑は数年ぶりの副園長配置ですので、私はもちろん、周囲の皆様も戸惑うこともあると思ひますが副園長としての責務の重圧に負けぬよう二歩一歩進んでまいります。不慣れではありますが、笑顔を絶やさずに職務に励んでまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



ゆたか苑
副園長 薄井 正和

勤続二十年となる節目の年に副園長就任のお話をいただき、私に務まるのかという不安な思いと共に利用者の生活支援を始め、職員育成や施設運営管理、園長のサポートと様々な役割を担わなければならない責任の重さに身の引き締まる思ひです。

振り返れば高齢者や障がい者の施設で介護職、生活支援員、生活相談員として経験を積ませていただき、資格取得やスキルアップをさせて頂きました。

時には失敗をしながらも『利用者者の笑顔をたくさん引き出したい』という想いを無我夢中に追い続け、実現させて下さったのはひとえに温かく見守つて下さった園長を始め、先輩や同僚、後輩のお力添えがあったからこそと感謝の念に堪えません。

これからは恩返しとして後輩の育成に努めていく立場となります。職員個々の自己実現達成やゆたか苑の理念『丁寧で優しい寄り添う介護』の実現のために、共に悩み、考えながら日々取り組んで参りたいと思ひます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



東村山生活実習所
副所長 本間 仁

四月より東村山生活実習所の副所長として就任いたしました。

さて私は、平成十一年四月に本法人に入職し、入所施設のさやま園に配属されました。さやま園では、年齢構成や障害特性、また様々な生活の背景を抱える利用者支援させて頂きました。気付けば十八年間の在籍となり現在に至ります。

私は、利用者の方が安全に安心して利用されること、また思い描く幸せを実現することが大切だと考えます。これらに支援者が真摯に向き合うことがサービスの向上につながると思っています。それは、一人で成しえる事はできません。職員が一丸となり取り組む事で初めて実現すると考えます。その為には、より一層、組織力を高める事が必要です。人材育成や働きやすい職場作りに邁進したいと考えています。

新たな職場に着任し、自分の未熟さを実感しております。また今までとは違う立場に重責を感じ身の引き締まる思いです。至らない点多々あるかと思えます。今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。



小茂根福祉園
副園長 茂木 康子

四月より小茂根福祉園の副園長を拝命致しました。責任の重さを痛感する毎日ですが、つひつ丁寧な仕事に励んでいきたいと思っております。

思い起こせば二十年前、福祉に関して何もわからないまま小茂根福祉園に就職をしました。福祉の学校を出ている訳もなく、実習すらしたことのない私に、諸先輩方は常に温かく熱心に御指導下さいました。私自身はとにかく毎日が楽しくて充実していたことをよく覚えております。今日まで小茂根福祉園に勤務できたのも、ご一緒した全ての利用者、家族の皆様、上司や同僚の皆様のおかげと感謝しております。今後は自身の経験を踏まえ、女性も長く働く事ができる人材育成のあり方を考えていきたいと思っております。

この間、法制度が大きく変わり、障がいのある方々の暮らしも少しずつではあります。利用者の皆さんが自分らしく、夢や希望をもって生活できるように小茂根福祉園では何ができるのか、社会にどう発信していくのか職員と一緒に考えて実践して参ります。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



昭和郷第二保育園
副園長 清水 淳子

この四月より昭和郷第二保育園の副園長に就任致しました。思い起こせば保育士として働き始めた頃、ただ仕事を覚える事が精一杯で、毎日が慌しく過ぎていった事を思い出します。子ども達の笑顔と保護者の方からの信頼を励みとして努力し、これまで勤めて参りました。そんな私が副園長に就かせて頂けるまで働き続けることができたのは、今までお世話になった園長をはじめ諸先輩方のおかげだと思っています。様々な場面で教えていただき、助けられ、支えて頂きました。感謝の気持ちでいっぱいです。

現在、保育園は待機児の問題から端を発し、様々なことでマスコミ等にも大きく取り上げられ注目を受けています。また、来年度より保育所保育指針が改訂となることから、職員と共に勉強を重ねています。これから少子化に向かつていく中で、教育と保育の質の向上、地域と連携した子育て支援の充実を図り、選ばれる保育園を目指していきたいと思っております。

副園長として今後も精進を重ね努力していきたいと思っております。ご指導のほど宜しくお願い致します。



みなと保育園
副園長 鈴木 円香

四月から、みなと保育園の副園長として就任致しました。新卒で、みなと保育園に入職致しましたが、今思い返すと、一年目から子どもが好きなだけでは務まらない、甘くない世界だと、落ち込むこともありました。それでも今、保育士としていられるのは、子ども達と過ごす中で成長を感じた瞬間の言葉に表せない感動を味わえるから続けているのだと思います。

みなと保育園は四十周年を迎えた平成二十八年度に、耐震工事を行いました。保育を実施しながらの工事でしたが、全職員が協力したことで無事に終了する事が出来ました。その過程では、様々な初めての業務経験をさせて頂きました。

人と携わる仕事として、何年働いても完璧にこなせる業務はなく、常に新たな課題に取り組めるのが福祉職の醍醐味であると私は感じています。

これからは副園長として気持ち新たに、「子どもに育ててもらおう」「保護者から教わる」「職員から学び、園長に指導して頂く」そして常に謙虚さを忘れず業務を全うしていく所存です。



原町グループホーム
相談課長 山脇 啓子

四月より相談課長を務めさせていただくことになりました。

法人に入職して二十一年目となります。学生時代に就職活動をしていた時祖母が市の広報を見て職員募集をしていると教えてくれたことが法人との出会いでした。

現在の原町グループホームで四つ目の施設となりますが、どの施設でも利用者の方々に教わる事が多くその一つが私の財産となっています。また、一緒に仕事をしてきた方々にもとても恵まれて二十一年目を迎えられると思っております。

グループホームは自宅のようにゆっくりと過ごせるような雰囲気を作る事が大切だと思います。どうすればそのような雰囲気を作り出せるのか、一人一人のその人らしさを見極めて小さなことを疎かにせず考え実行していきたいと思えます。今まで利用者の皆様に教わってきたこと、周りの方々から教わってきたことを今度は私が皆様にお返しする番だと思いいれからも日々精進していきたいと思えます。今後ともご指導のほどよろしく願います。

退 任 挨拶



つっじが丘保育園
前園長 上林 唱子

出会い・発見・感動
子どもたちの元気と笑顔、そして数えきれないほどの多くの方に支えられ約三十七年間勤務しました同僚援助会を三月三十一日付で退職致しました。

振り返りますと、公私共に色々な事がありました。いつも一緒にがんばってくれた仲間がいたからこそ、今日まで続けてこれたことに「感謝」の言葉しかありません。幸いにも何事もポジティブに考える性格は他の人から「大変です」と言われても大変と思わず乗り越えられ、今となっては楽しい思い出いっぱいあります。

昭和五十五年長男の子育て中に、今は亡き石井タカ子園長より保育園復帰の話がありました。当時は「結婚・出産」は保育士にとって退職するのが当たり前でしたが上司の理解もあって、昭和郷保育園に再びお世

話になり次男を出産。産前産後六週間の産休取得者第一号でした。五年後三男を出産。この頃になると産後八週間取れる様になりましたが、体調に問題がないという一筆を医師に書いてもらい(健康な体に生み育ててくれた両親に感謝)六週間で復帰した事を思い出します。

家庭子育て、仕事の両立で必死な日々が続き主任としての十七年間は、園長の留守を守る立場としてハラハラドキドキでした。留守中何事もない様に...と願っていました。何かあるたびに、「そのうち園長になつたら私の気持ちかわかるわよ」と何度言われた事でしょう。留守中、いろいろな事を任せてもらった事で沢山の経験が出来たこと。何よりも「何かあっても園長の私に責任があるんだから、しっかり留守をお願いね」と言う言葉に救われ、がんばることが出来、この経験が後々私にとって大きな力となりました。

はじめての電車通勤は、板橋区にある同援みどり保育園への異動でした。二時間近くかかる通勤は大変じゃなかったと言えは嘘になります。昭和郷しか知らなかった私にとっては、いろいろな事が新鮮で大変勉強になりました。

年々保護者の多様なニーズに応じた保育サービスの普及が進むとともに、保育ニーズに対応する為に、職員が一生懸命がんばってくれたこと、そして日々の保育の中では、「子どもにとって何が一番大切か」をくり返し問いながら、職員と話し合い保育の充実と職員の質の向上に努力してきた日々でもありました。

平成二十九年度は、保育所保育指針が厚生労働省から告示され、今年一年は周知期間ということで、各園で勉強会が多くなることでしょう。保育所に対する期待が高まる中、社会情勢を踏まえながら、「今までと何がどう変わるのか」を子どもとのかかわりの中で個々の発達に目を向けながら、職員一人ひとりが意識し実践していく中で、来年度につなげてほしいと思えます。

最後にいつも新たな出会いと発見があり、感動があった四十三年間の保育人生、そして同援という「大法人」に就職し「全力投球」で楽しく思いっきり仕事が出来たこと、退職という最高の締めくくりができたことを誇りに思います。

園長として力不足な私を支えて下さった皆様、仕事仲間、そして家族に「心からありがとう」ございました。

どの様な時代が来ようとも二十一世紀を担う子ども達が健やかに育ちゆく支援を...

平成28年度 事業報告について

平成29年6月12日に開催された理事会、6月28日に開催された評議員会において、「平成28年度事業報告」並びに「平成28年度決算報告」が承認されましたのでお知らせいたします。

なお、本会の事業報告並びに決算書は頁数が相当数に及びますので、その要旨のみを8ページから13ページのとおり紙上掲載いたします。

法人事務局に「平成28年度事業報告・決算報告書」がございますので、詳細をお知りになりたい方は、事前にお電話で来訪日をお知らせいただければ閲覧していただけます。

平成28年度 事業報告

平成28年度の日本の経済は、一億総活躍社会の実現の加速等を柱とする「未来への投資を実現する経済対策」など各種政策の効果や世界経済の回復にともなう輸出増により、雇用・所得環境が緩やかに改善しつつ、経済の好循環が進展する一方で、将来への不安感から個人消費が伸び悩むなど、わが国の景気を下押しするリスクもあり、楽観視できない状況も続いております。

国においては、社会福祉法人制度改革を柱とした改正社会福祉法に関する政省令を発出するとともに、持続可能な社会保障の確立に向けたさまざまな見直しや「子ども・子育て」の分野における待機児童解消対策など、具体的な取組が進められました。

当法人としても、社会福祉法人制度改革にともない、運営組織体制や財務規律の強化を図るとともに、地域ニーズに応えるための社会貢献活動や新たな福祉事業に取り組みました。事業実施につきましては、引続き利用者サービスの一層の充実を図るため施設運営に万全を期すとともに、人材の確保及び育成に努めました。

まず、組織運営につきましては、評議員会を従来の諮問機関から法人の重要事項を議決する議決機関とするなど理事会へのけん制機能を強化した組織体制の見直しや会計監査人の導入、社会福祉充実残額の明確化など財務規律の強化をおこないました。施設運営につきましては、利用者への個別支援計画に基づいた適切なサービスを提供するとともに、老朽化した設備の更新など利用者の安心・安全を確保するための対策を推進いたしました。28年度は、同援はいじま保育園を開設するとともに、地域包括ケア実現に向けた昭和郷高齢者複合施設の新築工事が完了しました。

次に、人材の確保につきましては、28年度も新規学卒者の計画的な採用を進めてまいりました。また人材の育成につきましては、新規職員から施設長まで階層別に法人研修を実施したほか、各支援系グループにおける分野別の研修などを行い、職員の資質向上を図りました。

最後に昭島病院ですが、常勤医師の確保など課題の多い中、上半期から入院、外来共に患者数が伸び悩み、厳しい財政運営となり3年連続の赤字決算となりました。一方でチーム医療の推進に努め、救急車の受入件数を伸ばしたほか、超高齢社会のニーズに応えるため、急性期治療後の回復に不安のある患者を受け入れ、安心して自宅や施設で暮らせるまでの橋渡しを行う地域包括ケア病床を新設するなど、地域の中核病院の役割を担って参りました。

この一年、施設の利用者ならびにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から様々なご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

同 援 だ よ り

| 資金収支計算書 |

(自)平成28年4月1日 (至)平成29年3月31日

(単位:千円)

勘定科目		合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業	内部取引消去
事業活動による収支	事業活動収入計(1)	10,889,774	10,377,443	169,942	364,416	▲12,027
	事業活動支出計(2)	10,250,270	9,768,735	165,734	327,828	▲12,027
	事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	649,504	608,708	4,208	36,588	0
施設整備等による収支	施設整備等収入計(4)	317,209	46,020	271,189	0	0
	施設整備等支出計(5)	1,557,551	485,357	1,040,340	31,854	0
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	▲1,240,342	▲439,337	▲769,151	▲31,854	0
その他の活動による収支	その他の活動収入計(7)	687,344	707,543	779,464	7,887	▲807,550
	その他の活動支出計(8)	191,991	979,341	3,500	16,700	▲807,550
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	495,353	▲271,798	775,964	▲8,813	0
当期資金収支差額合計 (10)=(3)+(6)+(9)		▲95,485	▲102,427	11,021	▲4,079	0
前期末支払資金残高(11)		3,165,399	3,019,135	38,996	107,268	0
当期末支払資金残高(10)+(11)		3,069,914	2,916,708	50,017	103,189	0

同 援 だ よ り

事業活動計算書

(自)平成28年4月1日 (至)平成29年3月31日

(単位:千円)

勘定科目		合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業	内部取引消去
サービス活動増減の部	サービス活動収益計(1)	10,794,912	10,271,970	169,056	364,114	▲10,228
	サービス活動費用計(2)	10,772,030	10,236,715	165,677	331,665	▲12,027
	サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	72,882	35,255	3,379	32,449	1,799
サービス活動外増減の部	サービス活動外収益計(4)	104,862	105,473	885	303	▲1,799
	サービス活動外費用計(5)	38,023	37,244	729	50	0
	サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	66,839	68,229	156	253	▲1,799
経常増減差額 (7)=(3)+(6)		139,721	103,484	3,535	32,702	0
特別増減の部	特別収益計(8)	324,279	65,421	470,653	1,668	▲213,463
	特別費用計(9)	323,798	247,284	274,689	15,288	▲213,463
	特別増減差額 (10)=(8)-(9)	481	▲181,863	195,964	▲13,620	0
税引前当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)		140,202	▲78,379	199,499	19,082	0
法人税、住民税及び事業税支出(12)		5,663	1,246	0	4,417	0
当期活動増減差額 (13)=(11)-(12)		134,539	▲79,625	199,499	14,665	0
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(14)	6,804,119	6,605,331	100,409	98,379	0
	当期末繰越活動増減差額 (15)=(13)+(14)	6,938,658	6,525,706	299,908	113,044	0
	基本金取崩額(16)	0	0	0	0	0
	その他の積立金取崩額(17)	681,207	681,207	0	0	0
	その他の積立金積立額(18)	161,390	161,390	0	0	0
	次期繰越活動収支差額 (19)=(15)+(16)+(17)-(18)	7,458,475	7,045,523	299,908	113,044	0

同 援 だ よ り

貸借対照表

平成29年3月31日現在

(単位:千円)

勘定科目	合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業	内部取引消去
資産の部					
流動資産	4,592,185	3,725,570	705,174	185,554	▲24,113
固定資産	17,419,199	16,837,675	1,108,624	241,262	▲768,362
(基本財産)	9,948,068	9,948,068	0	0	0
(その他の固定資産)	7,471,131	6,889,607	1,108,624	241,262	▲768,362
資産の部合計	22,011,384	20,563,245	1,813,798	426,816	▲792,475
負債の部					
流動負債	2,010,058	1,274,639	675,157	84,375	▲24,113
固定負債	1,270,128	1,270,128	560,000	208,362	▲768,362
負債の部合計	3,280,186	2,544,767	1,235,157	292,737	▲792,475
純資産の部					
基本金	997,735	991,500	0	6,235	0
国庫補助金等特別積立金	4,965,451	4,692,898	272,553	0	0
その他の積立金	5,309,537	5,288,557	6,180	14,800	0
次期繰越活動増減差額	7,458,475	7,045,523	299,908	113,044	0
(うち当期活動収支差額)	134,539	▲79,625	199,499	14,665	0
純資産の部合計	18,731,198	18,018,478	578,641	134,079	0
負債及び純資産の部合計	22,011,384	20,563,245	1,813,798	426,816	▲792,475

財 産 目 録

平成29年3月31日現在

社会福祉法人 恩賜
財団 東京都同胞援護会

(単位:千円)

I 資 産 の 部		¥22,011,384
(1) 流 動 資 産	¥ 4,592,185	
(2) 固 定 資 産	¥17,419,199	
ア.基本財産	¥ 9,948,068	
イ.その他の固定資産	¥ 7,471,131	
II 負 債 の 部		¥ 3,280,186
(1) 流 動 負 債	¥ 2,010,058	
(2) 固 定 負 債	¥ 1,270,128	
III 差 引 純 資 産		¥18,731,198

監 事 監 査 報 告 書

社会福祉法人 恩賜
財団 東京都同胞援護会

理事長 牧 野 洋 一 殿

社会福祉法人 恩賜
財団 東京都同胞援護会

監 事 鈴 木 道 生

監 事 岩 井 令 雄

私たち監事は、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの平成28年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

[1] 監査の方法の概要

各監事は、理事会及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告等(事業報告及びその付属明細書)について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類(計算書類及びその付属明細書)及び財産目録について検討いたしました。

[2] 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重要な事実は認められません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

昭島市長退任に際し同胞援護会との思い出

前昭島市長 北川 穰一

平成八年十月二十一日市長就任以来五期二十年、その前、市議会議員として五期十七年余に亘り、昭島市政に参画させて戴き、平成二十八年十月二十日を以つて市長を退任致しました。特に同援本部、関連諸施設の皆様方にはご指導ご協力ご厚誼を戴きましたこと衷心より感謝御礼申し上げます。

公人となる以前、私の家業が昭和二十年代後半より各施設とお取引が始まり、私自身大学生の身でありながら家業を手伝つておりました。本市内はもとより東村山市内のサンホーム・さやま園・ひかり苑・豊島区のゆたか苑の開設時、準備等のお手伝いをさせて戴きました。

永年のお付きあいの中では様々な思い出があります。特に印象深い事について申し上げます。

先ずは高山初代理事長のことで、終戦後、旧軍人の方と昭和郷地区一帯(旧軍の施設跡)に壮大な福祉施設構想をもつておられ、現在の富士見丘小学校(昭和二十五年開校)の用地にもご配慮戴いたお話も伺ったことがあります。歴代理事長はじめ関係者のご尽力により市内にも多数の諸施設を建設改築等整備をされ、今日で

は本市としても誇りであり、福祉の理想郷ともなつております。正に初代理事長の先見性と構想実現への情熱の賜ものではと存じます。その意を受け、歴代の理事役員、各職員の献身的なご尽力があつたものと敬意を表する次第です。これらの方々のためまぬご努力と素晴らしい施設環境の中で在園者も倅せを感じ、感じてこられたものと思います。

次に戸室昭和郷々長の貢献も忘れることはできません。福祉施設の運営には地元地域住民の理解は欠かせないとのこと、積極的に施設を解放され、市民との交流を大切にされました。今でこそ各施設・合同のイベント・納涼祭、文化祭・バザー、老人大学、更には今日、地域との合同防災訓練等、盛大に開催され、又個人・団体のボランティアも増えてきております。

また東京都など行政経験豊かな牧野理事長はじめ理事役員の方々の施設整備への貢献は大なるものがあると存じます。

施設長、職員の方々では、藤島(はる)さん、大内山さん、山内悦子さん、名久井さんらは特に印象が深い方です。

私の公職在任中は、社会経済、ひとの価値感、世界観の多様化の進行など激しく変化をしてきました。

少子高齢化、国際化、環境問題の深刻化、高度情報化、地方分権の進展等への対応が強く求められてきました。私はまちづくりの理念として第一に人間尊重、第二に、環境自然との共生を基に、まちづくりの視点は第一に市民との協働、第二に安心安全への配慮、第三にノーマライゼーション、第四に環境自然との共生、第五に個性と魅力の創造とし、都市像を「ひと・まち・みどりの元氣都市昭島」と掲げまちづくりを推進してきました。

この考えに基づき市民福祉の向上、持続可能な発展のためには、何より行政の健全な運営が前提です。戦後日本の発展は、国民の勤勉さと自立心により成し遂げ世界有数の経済大国となりましたが、本市の場合、自主税財源に限りがあり、ハード・ソフト両面の行政運営に難渋してきました。昭和郷隣接の立川基地跡地開発は遅れておりましたが、大規模国有地の処分基準が変更され、漸く平成二十年着手する運びとなりました。

世の中変化は当り前、守るべきは守り、変えるべきは変える行政改革を推進してきました。内部改革を第一に職員、市民、議会の理解を得ながら行政の健全化を図つてまいりました。

改革の一つとして民間でできることは民間にという事で、保育園等福祉施設の運営に、課題もありながらもノウハウ豊かな同援、関連施設のお力添え受託ご協力を戴きました。本当に有難く嬉しく存じます。

ハード面のまちづくりにも内部改革と共に、国・都等関係機関との連携も必要不可欠であります。

既に中神駅北口広場、拜島駅橋上駅舎化・自由通路・南口駅前広場、市内南北道路の鉄道との立体交差事業(二本)等が完了し、現在は東中神駅橋上駅舎化・自由通路・北口駅前広場含め跡地土地区画整理事業を整備中、跡地内法務省関連施設等も整備が進行し、まもなく完了となります。

このように積年の懸案事項・戦後の精算も見通しが立つてまいりましたので、そして自分の体調も考え今後の市政運営を新しい市長にバトンを渡すべきと考え退任を致すこととしました。

未だ未だ市政の課題も尽きませんが、同援、関連施設の方々には、永年お世話になりましたことを感謝申し上げます。今後共、市政各般へのご指導ご協力をお願い申し上げます。

結びに東京都同胞援護会、関連施設のご発展と皆様のご健勝ご活躍を祈念申し上げます、私の雑駁な所感思いを述べて戴きました。

昭和郷複合施設・同援資料室

かねてより建設中でありました昭和郷高齢者複合施設がおかげさまで、このほど無事落成の運びとなりました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝いたしております。

開設を迎えるにあたり、四月二十七日に竣工式・祝賀会を執り行い、昭島市長、地域の関係者をはじめとするご来賓のご列席を賜りました。皆様からは、昭和郷高齢者複合施設への激励や、期待のお言葉を頂き、職員一同、気持ちを新たに全力で職務を全うする所存です。

各事業のスタート時の様子を紹介します。



「昭和郷訪問介護センター」四月末に急遽ご依頼があり、連携型でのサービスを開始いたしました。

「昭和郷小規模多機能型居宅介護センター」オープン初日六名の通いと二名の泊りサービスからスタートしました。

「昭和郷居宅介護支援事業所」さくらガーデンの利用者を中心に、ご契約を頂いております。

「グループホームかえで」旧グループホームかえで利用者九名の引越しを、五月一日に行いました。また、新規利用者も五月中に引越しが終了いたしました。

「さくらガーデン」四月三十日、五月一日



にライトホームの方の引越しを行いました。その後段階的に、新規利用者の入居を進めております。

いずれの事業も、徐々にではありますが、着実な第歩を踏み出すことが出来ました。

地域の皆様の交流の場として設置したさくらホールも、六月十七日(土)に昭島市の自治会第四ブロックと昭和郷との地域交流会会場として活用いたしました。今後も多くの皆様にご利用いただけるよう、ご案内してまいります。

さらに複合施設には、東京都同胞援護会の約七十年の歴史がわかる常設の資料室を設置しております。軍人援護会に対する昭和天皇の勅語の展示をはじめ、これまで取り組んできた支援、ケアの端が垣間見える貴重な資料が数多く手にとってご覧頂くことが出来ます。

私たちは、市民の方が重度の要介護状態となつても、住み慣れたこの街の場所で、ご本人の意向を十分に尊重し、その人らしい暮らしを、人生の最後まで続けることができるよう質の高いサポート支援を提供いたします。また関係諸機関等とも連携し地域包括ケアシステムの構築に努めます。昭和郷(同援)の特徴を活かし、高齢者介護だけに留まらず地域福祉の拠点としての役割を担うべく日々精進してまいります。

(浅見 記)

豊島区西部障害支援センターの開設にあたり

豊島区より豊島区西部障害支援センターの事業運営業務を受託し、四月から新たに開始致しました。業務内容としては、豊島区にお住まいの身体や知的に障害のある方とご家族等に対する障害福祉サービスの窓口受付業務と実施機関への取次または障害福祉サービスの紹介、連絡、案内を行っております。また、六月から計画相談支援事業所を開設し、相談支援が始まりました。まだ始まったばかりでご利用者にご迷惑をおかけすることもありますが、豊島区にお住まいの皆様が気軽に安心してご利用して頂けるよう職員一同努めて参ります。どうぞよろしくお願致します。

(工藤 記)



し
せ
つ
通
信

◆ 双葉園 ◆

双葉園では毎年、新緑の映える母の日に『母の日同窓会』というものを開催しています。卒園生、元職員、ボランティアさんを招待し、おいしい食事を頂きながら、お世話になつていらっしゃる方々への感謝と同窓会の意味を込めて開催しています。今年も例年通りたくさんの方にお越しいただきました。

双葉園の創設八十四年の長い歴史の中で卒園生の方たちは、職員よりも年齢が高い方が多く来園します。招待者の方には胸元に目印のシールを貼ってもらおうのですが、あまり意識をしない児童にとつては、「この人は元職員なのか？ 卒園生なのか？ ボランティアなのか？」の疑問を頭に浮かべながら会が進んでいきま

出産をして子どもを連れてきてくれる方や年月を経て顔を出してくるようになった方もいます。

私の少ない経験からでも、彼らが世間の荒波にもまれながらも立派に成長したのだと想像しながら、感慨深くなる事があります。そして、現在入所中の児童に重ね合わせ、子どもたちの本来持っている力を思い出させてくれる機会にもなっています。また、児童にとつては、退職した職員とも再会できることで、繋がりを実感できる機会でもあります。児童には、『直接関係がないような方たちも元を辿れば繋がっており、そんな多くの方の支えがあり、今元気に過ごせているのだ』ということ伝えていきます。今後も繋がりを感ぜられる場



所として機能できるように尽力していきたいと思えます。

(八巻 記)

◆ 同援はいじま保育園 ◆

同援はいじま保育園は四月で開園して二年になりました。この二年で色々な体験をして園生活にも慣れてきました。園児も少しずつ増え五月からは四十一名です。人数が少ない保育園ですので子ども達も知らない友だちがいない位に関わりをもてるのが特徴です。園庭が無いので普段から散歩に出かけていますが、お姉さんと手を繋ぐ中에서도よりたくさん歩けたり、小さいお友だちを待つてあげる優しい姿などが見られました。昨年度の終わりに全園児での散歩も週三回ほど出かけていました。今年も新入園児が入り落ち着くまではなかなか他のクラスと一緒には出かけていませんが、後半は一緒に散歩に出かける機会を作っていきます。今年の二歳児は歩くのが大好きな子が多いため、今から楽しみです。

室内でも他クラスと一緒に遊ぶ時間があります。小さい子ども達にとつてお兄さんお姉さんが作ったブロックの電車や飛行機、パソコンなどはとても魅力的です。仲間に入れてもらったり、同じ物を作ってもらったりして嬉しそうにしています。家に帰っても他クラスのお友だちの名前が出るそうです。お母さんたちもお迎えの時などに仲良しのお姉さんは誰かし

同 援 俳 壇

万世敬老園あじさる句会

学窓や

風に流れる 卒業歌

土筆摘む

子等燥きおる 畑道

本の下に

惹かれて又も さえず囀れり 月岡 久三

蓬餅

手に取りそっと かいてみる つくしんぼ

風に吹かれて あたままだす 赤松ハツエ

野遊びや

風とたわむれて いる私

卒業式

お世話になった 先生よ 河田 文江

寒さにも

負けず頑張る 子供達

土手際で

蓬つんでる おばあちゃん 小林美智子



ら？と聞いて一緒にお話しています。保護者の方も他クラスの子どもたちが身近に感じられるようです。昨年度の卒園児は三名でしたので、発表会と一緒に卒園式を行い他クラスの保護者の方も一緒に参加してもらいました。その際に感動したと我が子の事のように一緒に喜んでくれました。四、五歳の園外保育がある時、当日の天気を乳児の保護者が心配してくれたりしています。皆家族のようで温かく感じます。これからも家庭的な雰囲気を感じていけるように、子どもたちや保護者の方との関わりを大事にしていきたいです。

(三上 記)

◆ 万世敬老園 ◆

万世敬老園では、潤いを持って生活することの大切さを実感していただくため、毎年、自立されている方から介助を要する方まで楽しめるような行事を行っています。

昨年度は利用者さんに好評を得ている日帰り旅行とスイーツバイキングを行いました。

日帰り旅行は千葉にあるマザー牧場まで行きました。

参加者は高齢化、重度化のためか二百名に対して二十五名と少なく、付添職員八名を加えた総勢三十三名、貸し切りバスを利用して海ほたるを経由しての道のりです。

十月初旬でしたが、標高が高いためか牧場は案外寒く、楽しみにしていたアイスクリームにもなかなか手が伸びず、少しの間は少しの晴れ間に気温が上がり、最終的にはおいしくいただくことができました。

毎年、職員がどんなに気を配っていても、目的地や休憩中に迷子(?)になつてしまう利用者さんがいましたが、今回は、楽しさのためか集合時間に中々集まらないことはありませんでしたが、安全に楽しく帰ってくることをできました。

また、旅行が難しい方に対して、スイーツバイキングを開催いたしました。万世敬老園の食堂をきれいなホテルのように飾り付けました。真っ白な



テーブルクロスの上にはキラキラした銀食器が置かれ、とてもカラフルでかわいらしいケーキなどのスイーツやドリンクを並べました。見た目にも鮮やかで甘い香りの中で食べるスイーツはとってもおいしく、利用者の皆さんに好評を博しました。

普段、気難しそうにしていたり、心を閉ざしたかのような寡黙な方が微笑みながら羊を撫でたり、スイーツを恥ずかしそうに召し上がったり、普段あまり見られない一面が垣間見られ、職員にとっても貴重な一日となりました。これからも利用者の笑顔が見られるように様々な工夫をしてまいります。

(大関 記)

昭島荘 道句会

わが庭に 螢とびかう 昔かな
 蟻の巣を 見てはよろこぶ 園児たち
 幼なき日 田植手伝い 思い出す 神 きぬゑ
 ほたる飛ぶ 小川の氷に 足を入れ あじさいに 指さす友の 雨しずく 梅雨入りや 外出前の 天気予報 加賀屋美知子
 列作り 早乙女さんの 田植えです 爪を切り ありさん運ぶ 軽々と 大輪の あじさい咲いて 感嘆す 河内 通子
 螢がり あっちの水や こわいかわ あぢさいの まぶたにうかぶ 母のかを 関根喜代子

昭島病院 ICT委員会

ICT(感染対策チーム)の活動

昭島病院 ICT委員
臨床検査技師 古谷 久重

最近ニュースなどで「院内感染」と言う言葉を良く耳にすると、病院内は沢山の人が多く、病気が集まるため、様々な菌が存在しています。

そこに、高齢者や免疫力の低下した易感染者が来院すると、感染の危険が迫ることになるため、菌が活発に活動出来ない対策(予防策)を考えるのが、院内感染対策委員会です。その委員会の実働部隊として、「院内感染」と向かい合っているのが私達ICTです。

「ICTってなんだろう」と思いますよね。ICTとは、インフェクション(INFECTION:感染)コントロール(CONTROL:制御)チーム(TEAM: チーム)の略です。ICTのメンバーは、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師の多職種で構成され、組織横断的な活動を行い様々な感染症から患者・家族・職員を守ることを目的としています。ICTの活動内容は、院内各所の感染発症状況の把握、院

内パトロール(巡回)、感染マニュアル作成及び改訂、感染防止などに対する職員教育及び研修、ICT便りの発行等を行っています。その活動の中で、今回は、研修について少しご紹介します。

もし、ノロウイルスに感染した患者さんが、突然嘔吐した時にどうすればいいのか。その対応策として、「嘔吐物処理セット」というバケツを作成し、各部署に配布しました。配布から二年が経過したのを機に、マニュアル(バケツの中にも入っている)通りに使用出来るかを、再検討し、手順・手技等を順番に検証していくと、戸惑う所がありました。実践出来ない、と困るので、昨春秋の研修は「ノロウイルス対策」の実演講習を行いました。実演では、リアル感を出すために、クッキーを砕いて水を少し加えた、偽嘔吐物を作成し、普段ガウン等を付けての作業を行ってないコメディカルや事務員にも、分かり易いように、標準予防策も含めて、マニュアル通りに実演を行ないました。偽嘔吐物に固形

化剤を掛けて固める体験もしてもらいました。マニュアルだけでなく、実演を見ると、汚染を広げない嘔吐物の処理が、スムーズに出来ると感じられたという意見が多くありました。

ここで少し菌の話を書きます。手にも他の皮膚と同じように常在菌が存在します。常在菌は、皮脂腺、皮膚のひだなどの深部に常在していて、皮膚の乾燥を防ぎ、PHを弱酸性にしたり、外界からの微生物の侵入を阻止したりと人間にとっては必要な菌です。対して、日常的にさまざまな環境や器具に手が触れると、その環境にいる細菌が手に一過性に付着しますがこれを、通過菌といえます。

常在菌も通過菌も、高齢者や免疫力の低下した易感染者にとっては、感染起因菌になることがあります。

皆さんは、手洗いで、洗い落せていない菌が握ることで、手に菌が付く、パソコンのマウスについた菌が、その後、使用する人に付くことを、考えたことありますか。手指衛生の研修を行うと、まず、チェッカーローションを手塗って、その手で、握手をして何人かで付くか、パソコンのマウスやドアノブに塗って、それを触った人、何人に付くか

等を体験してもらいます。その後、手を洗ってもらい、チェッカーを使用して、洗い残しを自分の目で確認します。体験した方は、思ったより洗い残しが多いことに驚き、菌が人の手を介して感染することを実感し、手指衛生の重要性を理解してもらいます。アルコール製剤を使用して、患者さんに触る前触った後等、五つの場面での使用が現在は推奨されています。

話が難しくなりましたが、ICTを例えると、実働部隊とか、パトロールとか、悪い菌から、患者さんを守るって、何とかレンジャーみたいって思いませんか。そう、私達が目指すところは、感染レンジャーで、悪(感染症)から地球(院内)を守るために、これからも感染対策の啓蒙活動を行って行きたいと考えています。大切な事は、私達職員が悪の秘密組織シロッカーにならないために、職員が一丸となって、守るべき感染対策を実施することが不可欠です。



ご支援ありがとうございました（敬称略順不同）

ご 寄 付

◇戸塚洋子◇山内悦◇内田祥二
◇森谷順蔵◇田中紀久子◇矢部
文子◇星野直治◇大野武夫◇小

野澤知治◇白井幸子◇高橋暢子

◇竹内捷郎◇森田美佐子◇昭島
市立昭和中学校 校長 中島理

智◇昭島市自治会連合会第四ブ
ロック ブロック長 横田孝至◇

都営中神第二団地自治会 会長
山田恒男◇社会福祉法人 同

胞互助会 理事長 蓮村幸兌◇一
般財団法人 東京青少年文化協

会 代表理事 久保島 玲子◇
扶桑建設(株) 代表 星野宗保◇

昭島サンセルフ 高野裕志◇橋本
工務店 代表 橋本誠一◇日清医

療食品(株)東京支店 支店長 渡
辺修◇ネオ・ハルト(株) 代表取締

役 南浩一◇(株)三ツ矢 代表取締
役 中村暢克◇(株)やまとモーター

ス◇(株)ラッククリーンサービス◇水
村肉店◇マツダドライサービス
日下幸宏

後 援 会

◇内田祥二◇川杉満吉◇小野田
和子◇中村定徳◇中村健一◇唯

野信廣◇南雲栄一◇森川喜久男
◇広田規子◇高伸智子◇榎島房

子◇青木保之◇幡野信子◇木村
伊三夫◇伊藤彰浩◇原町三丁目

町会 会長 土屋勝◇佐々木み
つる◇(株)金井商店◇エコア(株)◇

創洋紙商事(株) 代表取締役 中
屋守敏◇(有)海老山◇浦野工業(株)

代表取締役 浦野静夫◇(株)八
王子アイスフードセンター◇(株)

三ツ矢 代表取締役 中村暢克
◇横田屋米店◇おしゃれの店ひ

らまつ◇田所青果(株) 代表取締
役 田所金治◇(株)コスモス医工

代表取締役 小林寿男◇(株)キ
タジマ◇中村屋魚店◇(有)肉の大

高◇長崎三丁目町会 会長 足
立憲昭◇長崎公園ラジオ体操会

代表 田村寿重◇(福) 森の
会広地域ケアセンターバオバ

ブ◇桑都ビル管理(株)◇風間造園
(株)◇(株)豊明◇ワタキューセイモ

ア(株)東京支店◇吉村電気工事(株)
◇昭和の森エリアサービス(株)ス

マイルケア昭和の森◇国立厨房
サービス(株) 代表取締役 藤原

章太郎◇シダックスフードサー
ビス(株)東京支店◇(株)フソー◇

アーキベルク一級建築士事務所
◇(有)アタック◇橋本工務店 橋

本誠一◇(株)相田土居設計◇昭島
サンセルフ 高野裕志◇(有)ハ

ビリーサービス

※「同援だより」名前掲載希望欄に
○印をご記入頂いた方のみ掲載し
ております。

資 格 取 得 の 紹 介

左記の方々が資格を取得しま
した。

日頃の業務に活かして活躍を期待
します。

【介護福祉士】

ゆたか苑

介護職員 杉田あかね

昭島荘

介護職員 矢部 悠太

介護職員 甲斐 昭次

さやま園

非常勤生活支援員 富井 恵子

非常勤生活支援員 佐藤美智子

【精神保健福祉士】

いこいの家

支援員 北嶋ゆりや

【社会福祉士】

サンライズ万世

非常勤母子支援員 池田千枝里

【保育士】

サンライズ万世

非常勤母子支援員 池田千枝里

バザー等ご協力
ありがとうございました

○東村山生活実習所まつり
五月二十七日(土)

○同援みどり保育園バザー
五月二十七日(土)

○同援さくら保育園バザー
六月十日(土)

○小茂根福祉園 こもねフェスタ
七月八日(土)

○同援はいじま保育園 夕涼み会
七月十三日(木)

○大山保育園 夏祭り
七月十四日(金)

お知らせ

左記の予定でバザーや夏まつり等を開
催致します。品物のご寄附ご協力等よろ
しくお願い致します。

○つつじが丘保育園夏祭り・

ミニバザー
七月二十日(木)十六時三十分～

○むさしの保育園
はじっこ盆踊り・ミニバザー

七月二十一日(金)十四時～

○同援さくら保育園夏祭り夕涼み会
七月二十一日(金)十七時～

○サンホーム納涼祭

七月二十日(金)十八時～

○さやま園夏祭り
七月二十五日(火)十七時～

○ゆたか苑 夕涼み会
七月二十六日(水)十五時～

○昭和郷納涼の夕べ
七月二十七日(木)十七時三十分～

○むさしの保育園方南分園
縁日夕涼み会・ミニバザー

七月二十八日(金)十六時～

○さいわい福祉センター夕涼み会
八月五日(土)十七時～



○同援みどり保育園 夕涼み会

八月二十五日(金)十八時～

○児童センターぱれっと 感謝祭
十月一日(日)十時～

○ゆたか苑 地域交流バザール
十月十四(土)十時～

○合同さやま園祭
(ひかり苑・サンホーム合同)

十月十五日(日)十時～

○サンライズ武蔵野 バザー
十月二十日(土)十時三十分～

○昭和郷フェスタバル
十月三日(金・祝)

○小茂根福祉園 こもねまつり
十月十日(土)十時三十分～

○さくらんぼ祭り
十月十二日(日)十二時三十分～

雑感

近年、ゴールデンウィークを過ぎ
ると「夏日」が増え、早くも熱中症
対策をとらなくてはなりません。
この時期は、一年の中でも一日の寒暖
の差が最も大きくなる時期で、気
温の変化による体調不良に注意が
必要となります。

さて、これから本格的な夏の季
節になりますが、今年の夏は、「冷
夏」、「猛暑」どちらでしょうか？
一般的にエルニーニョ現象の場合は

「冷夏」に、ラニーニャ現象の場合は
「猛暑」になると言われています。
昨年九月に気象庁が出したラニー
ニャ現象発生の発表から、今後、二
～二年はこの気象が続くと考えら
れます。そのため、日本に上陸した
台風の数がとて多く、私の勤務
する病院の駐車場では、冠水する
などといった被害がありました。患
者様には、大変なご迷惑をお掛け
してしまいました。今年、雨水
配管工事を行ない、万全の体制に
する予定です。それにしても、ゲリ
ラ豪雨や台風には来て欲しくない
ものです。

この夏、皆様が、熱中症の予防や
対策をとり健康被害を防ぎ、水害
の被害を受けることなく安全に過
ごせますよう祈りたいと思います。
(長谷部 記)

― 表紙の写真 ―

「静謐な湖に映り込む知床連山」

(南山京子氏)

平成二十九年七月十五日 発行
東京都新宿区原町三の八
電話 〇三(三三四) 七六一
社会福祉法人 財団法人 東京都同胞援護会
発行者 飯山 幸雄
印刷所 東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国四一―八